



持地 英実
MOCHII Hidemi
多田建設(株)
環境整備部

No-Dig Todayを毎回楽しく拝読させていただいております。非開削関連に従事している技術者にとって、なかなか専門書が少ない中、自分が経験する事の出来ない技術であったり、今後自社で活用できる技術、工法を知りえる手段として活用させて頂いております。

今回の特集である「特殊条件下での発進と到達技術」を読んでもみると、いかに知恵を絞って実績の少ない未経験の推進工事を完成させているのかがわかります。今後ますます必要性が増える到達立坑の設置が不可能な推進工事や小型立坑から発進せざるを得ない大中口径管推進工法は、技術の研

鑽に取り組み推進技術者によって新しい時代を切り開いていくに違いないと思います。

土木技術者にとって少し弱い分野のコンピュータネットワークウイルスに関する記事がとても解りやすく書かれていました。ウェブサーバーにもご用人、古いソフトウェアは危険など項目ごとに注意するポイントが示されていて、ウイルスに関する知識が少ない私にとって、今後注意しながらパソコンと付き合っていこうと考えるきっかけを与えてくれました。これからもNo-Dig Todayを欠かさず拝読したいと思います。



小島 崇司
KOJIMA Takashi
フジテコム(株)
技術開発グループ
製品開発チーム

管 路の老朽化問題やさまざまな用途の配管・道路・地下鉄といった先行埋設物の多さ、振動等の環境側面への配慮、都市機能を停止させない、住民の安全の確保、といった多々の課題や制約条件がある中、地下空間を有効活用するためのさまざまなアプローチが多くの特集と写真と共に紹介されており、また工事を進めていく上で予め想定された課題と実際に進めていく中で発生する課題の事例、および、その対策についても触れられており、大変興味深く読ませていただきました。

ここ数年で問題として出てきたゲリラ豪雨による浸水は自分の身の回りでも起こっている事であり、会員企業様が保有されている素晴らしい技

術や製品を通じて地下空間を有効活用し、解決されると良いと思いました。

IT技術の連載で触れられていたコンピュータウイルスの話は、IoTという言葉が世に飛び交うようになって久しい現在、ネットワークにつながる機器を扱う際には気になければならない問題です。

機器の開発や導入の際には、便利さと同時にウイルス感染のリスクがあることも忘れてはならない事です。

これからもNo-Dig Todayからいろいろ勉強させていただきたく思います。



小林 貴幸
KOBAYASHI Takayuki
応用地質(株)
技術本部

No. 103の特集は「特殊条件下での発進と到達技術」でした。普段は、物理探査を専門として業務に携わっている私には、あまり馴染みのないテーマでした。しかし、特集を読むことで既設直接到達工法が、環境や第三者への負荷の軽減、コスト削減などに大きく寄与しており、今後ますます重要な技術となっていくことが理解できました。また、皆様が厳しい施工条件化の中で、課題解決に向け努力されていることも理解できました。

記事を拝見しながら、都市部などの厳しい施工条件下であればあるほど、私の専門である物理探査が皆様の施工の高品質化やコスト削減に対し、何かお役に立てるのではないかと考えております。これからも、雑誌を拝見させていただき、何ができるかを検討させて頂ければと考えております。今後ますます非開削技術への需要は高まると思われます。更なる有効活用を期待しております。